

実りの秋を迎え、 いよいよ販売開始!!

発行／里山住宅博 in 神戸実行委員会
※転載禁止

6月、全国の工務店の皆さまにご覧いただいた里山住宅博。スタッフや関係者の生の声をお届けすることのできたセミナー。あれから半年の月日が流れようとしています。
10月28日現在、足場は街区から姿を消し、外構工事もあと2区画を残すのみとなりました。この半年の間に、この里山での出来事を皆さまにご報告したいと思います。

ベンチと休憩所



6月の工務店セミナーでは、駐車場にテントを張り、テーブルと椅子の休憩所を設けましたが仮設のものだったため、来場者にくつろいでもらうため、木でベンチを製作し、街区のいろいろな場所に設置しました。来場者も、ゆつくりと座って休憩できるようになりました。

さらに、夏の炎天下や雨をしのげる場所として、屋根付きの休憩所を製作。スタシをかけ、見た目も涼しげな休憩所が2箇所完成しました。

工務店、草を刈る



来年以降、住民たちの手によって行われる里山の維持管理。里山住宅博の開催期間中、住民は不在ですが、それまで里山を放っておくわけにはいきません。暑い夏、下草はグングンと成長して、植えた果樹五木の姿を隠し、飲み込んでしまおうとしています。

業者を頼んで草刈りをさせるような無粋なことはやめよう。我々工務店が販売している商品なのだ、まずは自分たちで里山の維持管理をしてみようじゃないか。その体験なくして、どうやってこの区画を販売するつもりなのだ。有志の呼掛けに応じて、里山住宅博がお休みである木曜日、工務店スタッフが草刈りに集います。鎌を片手に、緑のディレクター・田瀬理夫さんが指導を引き受けてくれました。

「僕はね、コツを知っているから、鎌を使うのにまったく力を使わない。だから疲れないんだよ」そう言って、ニコリとされる田瀬さん。「猛暑」

を超え「酷暑」ともいべき太陽の下、60歳代後半の田瀬さんは、その言葉通りの疲れ知らずで、里山の手入れの先頭に立ち続けます。各工務店スタッフは、汗をポタポタ流しながら、草刈りに挑みます。「全ての草を刈ろうと思っちゃいけない。大切なのは、植えた果樹五木(ウメ・カキ・クリ・アマナツ・ビワ)がしっかりと育つこと。要するに、その周りだけしっかりと刈ればいい。」

刈った草は、果樹の周りにきれいに敷き詰める。これで、枯れ草が肥料になる。果樹の周りだけとはいえ、草刈りは半日に及びました。里山に集った工務店スタッフ、総勢32名。良い汗を流すと、良い笑顔がでてきます。上津台百年集落街区は全62区画。来年からは、今日よりもたくさんの人たちが集い、里山での日々を楽しんでほしい。

丹波焼、お茶会、文化香るイベント



会場では、各工務店の企画による様々なイベントが開催されています。地元とのつながりを活かしたイベントも多く、来場者だけでなく工務店にとっても、地域文化を改めて学びなおす場となります。

丹波焼の若手グループによる展示即売会では、たくさんの方が並び、量産品にはない魅力を各建物に添えました。今も、幾つかのモデルハウスには丹波焼が置いてあります。

着物姿のお茶の先生に来ていただき、お茶会のイベントも幾度か開催されました。27号地では、このイベントのために駐車スペースに茶室までも登場！ 参加してみた工務店スタッフからは、本格的すぎて腰がひけたけど、素敵な経験ができました、という声も。

また、地元で定期的に開催されている2つのマルシェが、里山住宅博街区を舞台に特別開催！ それぞれに魅力的な手作り品や食べ物などが並びました。こうした文化、地元のつながりを、百年の未来へとつなげることも、上津台百年集落街区の役割です。

エキサイティング・ナイター!!

住宅の夜の姿というのは、住人にとって重要です。ここは毎日帰ってくるための場所です。街が、家が、住人を迎えてくれるのです。里山住宅博街区の夜の姿を見ていただくこと、8月の土日にナイター営業を行いました。里山住宅博街区の夜の姿を見ていただくこと、8月の土日にナイター営業を行いました。この2日間だけ、17時の閉場時間を20時まで延長。18時過ぎから、街路に沿ってろうそくの火を灯し、各建物の室内照明をON！ 日が暮れるにつれ、その灯りが美しさを増します。

各戸の庭の門柱には、共通の門灯が設置されています。そこに灯りがともることにより、街区の一体感がグッと増し、暗い外構にポポッと門灯が続く様がノスタルジーさを感じさせます。建物から漏れ



てくる光も電球色が多く、全体として暖かい雰囲気です。「おかげで」という優しい声が聞こえてきそうです。

中でも夜景が美しかったのは、1号地と15号地。ハッと息を呑むような、歴史的建造物のごとき凛々しさを感じる1号地。かたや、大きな開口部からの光が里山に突き出したウッドデッキを美しく照らし、一流老舗旅館のような15号地。現地の工務店スタッフも、街区をまわって感嘆の声をあげました。

暮れゆくにつれて刻々と変化する夕景、夜景。お互いの顔がうす闇に溶けてゆく中、町並みの夜の美しさに見惚れた夏の夜でした。

百年集落街区に建つ家、設計コンペ!!



2棟のヴァンガードハウスに挟まれた2号地を舞台に、「100年集落街区に建つ家」設計コンペが開催されました。木造建築に携わる機会が減っている学生に、その魅力を知って欲しいという思いの元、建築家・堀部安嗣さんによる現地説明会も開催され、25の設計案が寄せられました。

神戸芸術工科大学、京都造形芸術大学、関西学院大学など多くの学生から応募があり、大賞受賞の作品は、施工工務店との調整後に、実際に2号地に売建住宅として実現することになっています。受賞作品の発表は、11月の合同セミナーの場で行われます。

里山青年会、発足

里山住宅博の定例会メンバーは、各工務店の代表が多いため、平均年齢は自然と高くなります。一方で、この住宅の購入者層を20代後半〜40代の子育て世代と定義しているモデルハウスも多い。そこに生じるジェネレーションギャップに懸念を抱き、また経営者世代の活躍に刺激を受け、広報部会・街づくり部会・運営部会に続く第4の部会として、「里山青年会」が発足しました。



若手が自発的に声を上げるといふ予想外の出来事に、メンバー一同、微笑みながら期待の視線を送ります。

発足時のメンバーは、ダイシンビルド・廣瀬、グートンライフ・出口、フクダロングライフデザイン・中井、あかい工房・河野の4名で、いずれも前述の購入者に近い年代です。活動は、SNSでの情報発信の指導、ブログ記事の執筆の当番制の提案を皮切りに、「さとやま探検隊」など、子どもが楽しめるイベントを企画。もちろん企画だけではなく、自らスタッフリーダーとして責任を負い、奮闘しています。メンバーも、各社の若手を加え、企画イベントも大規模になってきています。10月29、30日には、「カーペンターズフェスタ」、直訳すると「大工のお祭り」を開催し、72家族にご来場いただき楽しんでもらいました。里山住宅博において、普段はライバルとして付き合ひの薄い工務店同士が連携し、その若手スタッフたちが切磋琢磨する姿は、この取り組みの生み出したもう一つの価値であると言えるでしょう。

キツネと出会った!!



茶臼山緑地につながる里山では、いろいろな生きものに会います。キツネとの出会いのニュースも飛び込んできました。夏の朝、17号地裏の里山を歩くキツネとスタッフが遭遇。緑化階段下の遊歩道でちょこんと座っている姿が写真に収められました。こちらをジッと見つめているものの、距離があるためか、カメラを向けても逃げませんでした。

喜ばしい出会いばかりとは限りません。草刈の時には、マムシに遭遇。捕獲して駆除しました。歓迎されざる生き物との遭遇は、ここが豊かな自然の一部であるということの裏返しでもあります。里山は、自然の領域と人間の領域との境目、共生の場です。キツネ、マムシ、ムカデ、カエル、カナヘビ、ダンゴムシ…、いろいろな生きものとの出会いの場は、子どもたちの感性を豊かに育むでしょう。

里山デッキ、現る!!

眺望が楽しめる里山の最上部に、「里山デッキ」が姿を現しました。場所は、7号地と15号地の間です。里山に植わった果樹の幼木、元気の良い下草、深い緑色のため池、こんもりとした林、稲刈りを終



えた田園、民家、中国自動車道、その向こうに広がる山々…。北から北東方向に開けた眺望を、ウッドデッキの上で、木のベンチに腰掛けて楽しむことができます。目を閉じ、耳を澄ませば、吹き上げる風につて、鳥の音が聞こえてきます。

来場者にこの風景をもっと楽しんでもらおうという出展工務店の心意気で、このデッキは企画され、大工仕事に定評のある「あかい工房」の大工衆があつという間に造り上げました。

ヴァンガードハウスがリノベ改修?!



10月下旬、3号地・堀部安嗣さんのヴァンガードハウスの屋根にハシゴがかけられ、2日間の改修工事が行われました。入居する前のリノベーションというところ、何か不都合があったように受け取られるかもしれないですが、そうではなく、さらなるブラッシュアップとして、空気集熱式ソーラー「びおソーラー」が屋根に搭載されました。

空気集熱式ソーラーとは、屋根面で得た太陽熱を床下の土間に蓄熱し、冬の夜間でも土間からの輻射熱で暖かく過ごせるというパッシブ暖房です。夏の夜は外の冷気を取り入れる仕組みもあります。「OMソーラー」や「そよ風」といったものが有名ですが、この「びおソーラー」は、新築はもちろん、完成物件への後付けも可能ということもあり、チョイスされました。

空気集熱式ソーラーは、3号地だけではなく、1号地でも採用されています。寒さが厳しくなるこれからの時期、里山という環境に似つかわしいパッシブソーラーの体験の場としても楽しみます。

博覧会から販売へ

里山住宅博街区26棟のうち、10月末現在、契約済の建物は3棟です。これまでは工務店のモデルハウスとしての集客が強く、売り物であるという主張が抑え気味でしたが、これからは販売を前面に押し出し、1月15日のフィナーレに向けて、いよいよラストスパートをかけます。

まずは、定例会で全区画の販売価格を把握。価格については、明示したい工務店、公表に消極的な工務店、その考えは様々ではありません。Webサイトに販売用のページを設け、希望工務店から順に価格を発表しています。みなさま気になる価格は、3,280万円〜4,680万円と幅広く、周囲の建売住宅と比較するとワンランク上の価格帯となりました。街区としての魅力、里山付きという条件を考慮しても、各建物の仕様に力が入っていることがうかがえます。



合わせて現地でも、一般のイベントと並行して、販売相談会や住宅ローン相談会などを企画、開催。6号地の住人となることが決まっている建築家・二川徹さんによる里山案内ツアーも、来場者への里山の魅力の訴求手段としては貴重な場です。22社の販売のノウハウを結果し、クライマックスに向けて、もう一山を登りきり、販売面でも実績を築くべく、広報にも力を入れています。

里山に来場者を案内すべきなのか?



グランドオープンから、里山の斜面地の入口には、「立ち入り禁止」の札がぶら下がっていました。理由は、来場者に対する安全への不安でした。里山の傾斜はかなりきつく、子どもが斜面を走り回ると危ないのではないかと。階段を踏み外して転がり落ちてしまわないか。下草の中に潜んでいることが確認されている、マムシやムカデなどの被害が出ないか。鋭い葉で体を切ったりはしないか。そう言った理由から「立ち入り禁止」でした。

しかし、夏を過ぎた頃から、それではこの街区の魅力の半分を捨ててしまっているようなものではないか、そんな意見が聞こえてきました。ここに住むことになった人たちは、この里山を上から眺めているだけではなく、実際に草刈りをしたり、果実を詰んだり、維持管理をしていくこととなります。その里山に立ち入ることができないのでは、ここに住もうという決断はできないのではないかと。傾斜が急である、害虫害獣だって住んでいる、草だって生えてくる、その現実をしっかりと理解してから、ここに住んでほしい。

その声を受け、里山を案内するイベントなどが徐々に始まりつつあります。里山にもっと注目してほしいとの意図から、里山デッキも造られました。11月の合同セミナーの際、里山が散策可能となっているか、立ち入り禁止となっているか、ぜひ注目ください。

自生種のアルバム

当初は町並みの中で目立っていた金網も、緑の成長に合わせて、その姿が覆い隠されてきました。一夏を越えた緑は、驚くほど成長を遂げ、赤や黄色に色づき始めました。街区には、どんな木や草が植えられているのでしょうか。



7月上旬の様子



11月上旬の様子

地被植物

【キツタ】



【フシバ】



【ヤブラン】



【テイカカズラ】



低木混植

【ヤブコウジ】



【イロハモミジ】



【シヤノヒゲ】



【コガクウツギ】



【サラサドウタン】



【タニウツギ】



【ノリウツギ】



【ミヤマガズミ】



【ヤブウツギ】



【ヤマアジサイ】



【アワブキ】



【カクミノスノキ】



【コバノガズミ】



【シロダモ】



【ヌルデ】



【ヤマウグイスカグラ】



【ヤマツツジ】



中木・高木

【エゴノキ】



【コナラ】



混植生垣



【アカガシ】



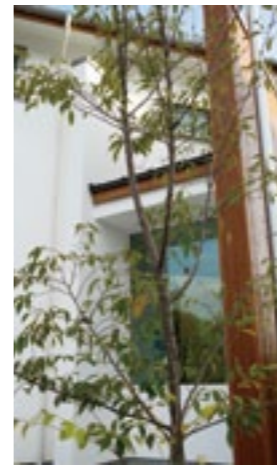
【ナナミノキ】



【ヤブニツケイ】



【ヤマボウシ】



【ヤマザクラ】



【マルバアオダモ】



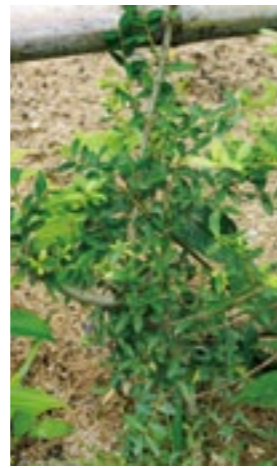
【コブシ】



【イボタノキ】



【マユミ】



【イヌツゲ】



【アセビ】



【シロダモ】



【カナクギノキ】



【ウスノキ】



【ウラシロガシ】



【シャシャンポ】



【ヤマツバキ】



【サカキ】



【ヤマコウバン】



【クロガネモチ】



【カゴノキ】



【カナメチ】



【ナツハゼ】



【シラガシ】



【モチノキ】



【シイ】



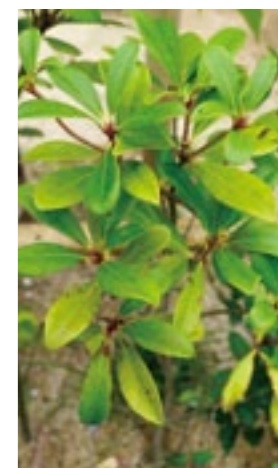
【アラガシ】



【ヒイラギ】



【ネズミモチ】



【モツク】



ポケット版
牧野富太郎植物図鑑
—武庫川流域の
植物の中から—

里山住宅博

検索

<http://kobe-sumai.jp/>

次号以降はwebサイト
にて掲載予定です。